

NPO **POSSE**

2025

9

季報

vol. 64

会員のみなさまへ

NPO 法人 POSSE は、2006 年の発足から 20 年目を迎えました。この節目の年である 2025 年の 4 月、POSSE は代表理事を今野晴貴から岩本菜々に交代し、理事は岩本菜々（代表理事）、荻田航太郎（事務局長）、嶋原宏一郎、渡辺寛人、坂倉昇平の体制となりました。これを記念して 2 月 23 日に下北沢にて POSSE 代表交代イベントを開催しました。今回の季報ではその一部をご報告します。

POSSE では体制だけでなく、運動の方向性についても転換を模索しています。これまで POSSE では、相談活動をつうじて「ブラック企業」の問題に取り組んできました。その結果、国や企業において一定の改善がなされました。しかし、物価の高騰や気候変動、インターネット上の言説などをはじめとした様々な社会的変化を背景として、これまでの運動は大きな課題に直面していると言わざるをえません。POSSE では、このような変化の中で人々の命が脅かされている問題として、非正規春闘、過労死や熱中症労災死などに取り組んでいます。また、権利行使や制度利用の支援だけでなく、自分たちで直接的に生存を支える実践として、食料支援のための農地運営も始めており、今回の季報でご報告しています。さらに、社会運動の言論の場としての雑誌『POSSE』のリニューアルも予定しています。

POSSE がこのような活動を続けていけるのは、会員の皆様のご支援・ご寄付のおかげです。今後ともご協力いただければ幸いです。

NPO 法人 POSSE 事務局

CONTENTS

- 03 代表交代イベントを開催しました
- 06 非正規春闘 2025 が実施されました
- 07 ビッグモーター社で起きたハラスメント自死訴訟の会見
- 08 コカ・コーラ自販機補充で起きた熱中症労災死の抗議行動
- 09 農地運営をつうじた食料支援を始めました
- 10 雑誌『POSSE』59 号・60 号を出版しました
- 11 主なメディア掲載情報
- 12 活動をご支援ください

代表交代イベントを開催しました

2025年2月23日に下北沢で代表交代イベントが開催され、前代表の今野晴貴と新代表の岩本菜々の講演が行われました。

POSSE 前代表・今野晴貴による講演

労働相談では本当に酷い状況でも何の助けも受けていない人たちがたくさんいる。私はこの事実には大きな衝撃を受けて取り組んできた。POSSEでは一過性の相談では終わらせない取り組みを目指してきた。そのために、労働相談を主幹事業として活動をはじめ、事業を拡大してきた。そして、【相談→調査→政策提言／言論→社会的連帯／アソシエーション形成】という実践を定着させた。また、私自身を含め、ボランティアには労働法や社会科学を学び、誰かを支える知識を養うと同時に、現場の問題を分析し、表現する能力を鍛えるよう働きかけてきた。一貫してコンセプトは「社会を変える力になろう」だ。

私自身が主に取り組んだ社会問題は2010年代の「ブラック企業」問題だ。2012年には「ブラック企業」の実態を現場の事実を元に調査研究して本にまとめ、広く社会問題として認知させていった。私は「ブラック企業」を問題化する言論戦略を立てるときに、若い人たちを「使い潰す」という問題に焦点を当て社会問題にすることを重視してきた。個別の労働問題だけに興味を払うのではなく、「若者を使い潰す企業」が跋扈しているにもかかわらず、それを止められない現実があると示すことで、労働運動からすそ野を広げ、教師や福祉関係者のような様々な人が手を組んで取り組むことができるのではないかと考えた。

日本社会を変える社会運動戦略を考える上で重

要なのは、欧米と違って日本独特の「企業社会」という構造認識を持つことであった。日本社会では非常に会社の存在が強く、ある種の企業依存体質が社会全体に根を下ろしている。例えば、終身雇用・年功賃金を前提にして、福祉政策の水準が低い。また、非正規雇用や失業者の立場は著しく弱い。低劣な福祉を背景として、「ブラック企業」の正社員も過酷な労働を強いられている。日本社会では産業別労働組合が企業を超えて労働条件を改善したり、労働者の利害が政治に反映されて福祉が要求されたりするという経験が乏しい。そのため、皆必死になって企業に奉仕する社会であり、その延長線上に「ブラック企業」が現れた。

このような企業社会の矛盾の広がりや、労働・貧困問題の震源であると同時に、社会構造そのものを変えていく契機になると考えられた。年代は前後するが、2000年代には「派遣村」の運動によって、企業社会の縮小によって生じたワーキン



今野晴貴（POSSE 元代表）

グプア問題が可視化された。働いても貧しいワーキングプアの非正規雇用や「ブラック企業」の労働者は、ただ貧しいだけではなく、企業に縛られない新しい公正な社会を目指す主体となりうる。また、非年功型の労働者は企業に依存できない分、かえって企業に縛られない普遍的な労働運動の担い手として、企業中心ではない家族関係・ライフスタイルのあり方や、企業依存ではない普遍的な福祉を求める政治運動の担い手となる可能性がある。実際に2009年にはワーキングプア対策が焦点となり、民主党の政権交代もあった。

ただ昨今の状況を見ると状況は非常に厳しい。企業社会の解体の後に現れたのは、より残酷な格差と無秩序であった。残念ながら、私たちの運動は時代に向き合い続けたが、その悪化に追い付けたとは言えないだろう。「ブラック企業」問題は低学歴層・中小企業が主たるターゲットとなり若者間で格差が拡大している。就職氷河期世代は若く安い労働力としてあらゆる産業に組み込まれて使い潰され、年齢を重ねると清掃・警備などさらに周辺の過酷な労働を押し付けられている。一方で富裕層は金融資産を拡大させタワーマンションに関して減税されているなど



岩本菜々（POSSE 新代表）

凄まじい不公正な社会が広がっている。それにもかかわらず、こうした貧困や格差に対する共感はいむしろ以前よりも喪失しているようだ。階層化が明確になっているにもかかわらず、そこに利害対立を反映した「政治」が成立してこない。優生思想発言に対しても若者が非常に支持をしたり、フェイクニュースが当たり前になったりしている。従来の政治・経済学や社会学のセオリーが全く通じない。

こうした中で NPO・社会運動は何ができるのだろうか。残念ながら運動の展望を見出すことは容易ではない状況に陥っている。だからこそ、今日の社会状況に対する深い洞察、新しい運動的視点をどう獲得していくかが重要になる。私はこのたび代表を退くが、今後も研究者として社会分析と労働・貧困運動のあるべき形を模索し続けたい。そして、これからも POSSE の仲間と共に社会の不正義の是正のために尽力していく所存である。

POSSE 新代表・岩本菜々による講演

POSSE は元々若者の問題に若者自身が取り組むというところから活動が始まっている。20 年前は非正規雇用で家計を自立していかなければならないワーキングプア問題は特に若者世代に顕著に現れていた。しかし現在ではワーキングプア問題が全世代化・多様化している。それに伴い、私たちも、女性・外国人・難民・高齢者と、支援の幅を広げてきた。

そして今、彼ら彼女らに共通項として現れているのが「生存の問題」。長期にわたる雇用の不安定化にインフレが追い打ちをかけ、様々な属性、労働問題や貧困問題を超えて「生きていけない」ということが一般化している。若い労働力として残業、ダブルワーク・トリプルワークを覚悟で働いていればギリギリ生存できるが、過酷な労働で身体を壊してしまったり、家族のケアをしなければならなくなれば、パート・アルバイトでしか働けなくなる。働くことが困難

になってしまえば、途端に命が危険に晒される。経済問題による自殺も 2023 年に 5181 人のぼり、貧困が命を奪っている。

ここ数年は、生存が脅かされている状況を現場の相談の中から掘り起こして問題化していった。例えば非正規労働者への実態調査では、貯金がなくなったら自殺するしかない、お米をリボ払いで買っているなどの実態が明らかになった。

生活保護もいよいよ機能しなくなっている。私たちの調査でも福祉事務所に行ったことのある 180 人のうち 75% がなんらかの違法行為を経験して追い返されていることが明らかになっている。保護受給者もインフレで生活が苦しさを増しており、生活保護を受けていながら自殺する人が昨年では 118 人にものぼっている。

こうしたなかで、この社会にどうやって抗っていけるのか。一つは闘い方を転換していかななくてはならないと考えている。私たちは、これまで「支援→調査→政策提言」というサイクルの中で問題に取り組んできた。しかし国政政党が「尊厳死の法制化」に言及したり高額医療費を削ったりと不要とされた人の命を奪っていく政策が進められるなかで漸進的な制度改善は難しくなっている。より集団的・直接的な行動を展開していくことが求められているのではないか。この間、非正規雇用労働者の一斉ストライ

キを組織する「非正規春闘」、ホームレスの人々とシェルターを求めて行政と直接交渉を行う「家あって当たり前でしょプロジェクト」などを組織してきた。最近では、貧困者の命を直接自分達の手で守る「農地運営」やフードバンクの取り組みもスタートしている。

最後に、こうした活動をさらに国際的に発展させていきたいと考えている。日本に来る移民は東アジアを中心とした国々を流動的に移動している。彼ら彼女らの抱える問題は国内で解決できる問題ではない。さらに、いま日本で起きている、低賃金や失業によって途端に生存不可能になるという構図は、グローバルサウスではずっと前から日常だった。それに日本企業は加担してきた。そこと連帯していくことがますます重要になってくると思う。



講演の詳細は、雑誌『POSSE』60 号のミニ特集「POSSE、20 年目の代表交代を迎えて」に掲載の今野晴貴「次世代に「期待」ではなく「連帯」していきたい—— POSSE20 年の実践・戦略と、これからの展望について」、岩本菜々「生存を否定する社会に抗うために——直接行動、生存基盤の創造、そして国際連帯」で読むことができます。



代表交代イベントで行われた、若手理事たちの座談会の様子。左から荻田航太郎、岩本菜々、嶋原宏一朗と、進行役を務めた渡辺寛人。座談会は雑誌『POSSE』60 号の「若手理事たちが語る活動の契機と新たな実践」で読むことができます。

非正規春闘 2025 が 実施されました



非正規春闘の記者会見

2025 年 2 月、非正規春闘 2025 が始動しました。非正規春闘は、物価高騰の進行と、非正規労働者の生活苦の深まりを受けて、2023 年に POSSE と連携する総合サポートユニオンを含む 16 の個人加盟ユニオンが緊急で開始したものです。2023 年には ABC マートで約 5000 人にのぼる全社的な賃上げを勝ち取るなどの成果を上げています。今年は、ケア・物流・非正規公務などエッセンシャルワーカーの賃上げに力を入れ、取り組みを広げています。

非正規春闘と同時に実施された非正規労働者生活実態調査に寄せられた声を紹介します。

「以前は野菜を多めに食べられていたのですが、現在は種類や数などを減らしています。冬は鍋に白菜やきのこなどたくさんの野菜を入れていましたが、今は豆腐ともやしが主役になっています」（月収 15 万円未満、40 代、女性）、「食費も光熱費も衣料品も高騰しているが、子ども達の物を削るのは避けたいため、親が食事を減らしたり、賞味期限切れの食品を配布している会などに参加して食料を確保している。子ども達の習い事や塾通いをやめた」（時給 1200 円未満、40 代、女性）など、食事を削っている実態がわかります。

また、「休日に別口で日払い短期のバイトに行って、不足する生活費をなんとか捻出している。そのため、疲労の蓄積を誤魔化す為に栄養ドリンクなど、余計に出費がかさみ、更に休みのアルバイトにでなくてはならず、悪循環に陥っ

ている」（時給 1600 円未満、50 代、男性）、「コロナ禍で失業中に失業保険が切れ、やむなく借りた緊急小口資金と総合支援資金の返済が今年から始まります。派遣なので契約期間が切れて就業していなかった分の生活費などの民間金融機関からの借り入れも返済しています。さらに今般の物価上昇などにより毎月生活は楽ではありません。5 千円以上の買い物が必要な場合は paidy など分割払い購入するようになってきました」（時給 2001 円以上、50 代、男性）など、日雇いアルバイトや「隙間バイト」で収入を確保したり、コロナ禍での特例貸付や消費者金融、リボ払いによって凌いでいる様子が窺えます。

非正規春闘には、従来の労働運動のイメージと異なり、多様な人々が結集しています。女性、学生、外国人労働者、障害者、高齢者などです。「夫に養われているから」「学生のお小遣い稼ぎだから」「すぐに帰国するから」「二流の労働者だから」「年金をもらっているから」など、様々な理由で賃金差別を被ってきた人たちです。

しかし、現在では家計にとって必要不可欠な収入を担っているとともに、職場でも基幹的な役割を担っていることが多くあります。それに関わらず、依然として低賃金で不安定な雇用に据え置かれています。非正規春闘ではこうした人々が、「生存を守るための賃上げ」という共通の目的のもとに結集し、ともに闘っています。

ビッグモーター社で起きた ハラスメント自死訴訟の会見

ビッグモーター社で起きたハラスメント自死事件の提訴会見が 2025 年 2 月にありました。ビッグモーターに新卒で入社した A さん（当時 22 歳）のご両親と POSSE が登壇しました。

A さんは大学卒業後の 2020 年 4 月にビッグモーター社に入社し、中古自動車の買い取り業務などに従事していました。運転免許証が必要と聞いていたため、在学中に教習所で免許を取ろうとしましたが、コロナ禍もあり取得できませんでした。店長からは「なるべく早く免許を取得するように」と優しく諭されたといいます。

しかし、5 月に「環境整備」という名目で本部から営業本部長などが店舗を訪問し、清掃状況を細かくチェックする行事があり、免許証の確認がありました。本部から来た上司は A さんが「免許証を取得したと嘘をついた」と決めつけ、A さんはその場で退職を「自分から」決めざるを得なかったといいます。この行事では他店舗で、幹部による「いすの下は舐められるのか」という暴言もあり、A さんがハラスメントに近い退職勧奨を受けたであろうことは想像に難くありません。A さんは同月に気分障害を発症して退職、自死に至りました。家族は A さんの自宅で、破り捨てられた退職届と米びつに投げ込

まれたスマートフォンを目にしています。

A さんは仕事が原因で亡くなったと考えたご両親は POSSE に電話し、そこで過労死問題に詳しい指宿弁護士を紹介されます。その後、労災申請に非協力的な会社側の姿勢が明らかになりました。ご遺族と弁護士が労災申請書を会社側に送付すると、会社側は「当社では事業主証明を行うことができません」と申請書の署名・捺印を拒否したのです。

労災は 2023 年 2 月に不支給とされました。2024 年に審査請求及び再審査請求を行いました。が、いずれも棄却されます。ご遺族はこれを不服として今回、国に労災不支給決定の取り消しを求めて提訴しました。この裁判は POSSE や弁護士がサポートしています。

統計では、勤務問題を理由とする自死で最も多いのは、長時間労働ではなく「職場の人間関係」ですが、ここにはハラスメントが含まれます。しかし、ほとんどのケースでは、原因を家族が把握することや証拠を集めることが困難であり、仕事とは無関係の死として扱われています。身近な人がハラスメントで自死された場合、相談機関に繋がり、専門家とともに労災申請や裁判を提起する取り組みが必要です。

遺族、弁護士、POSSE の提訴会見



コカ・コーラ自販機補充で起きた 熱中症労災死の抗議行動

シグマホールディングス本社フロアでの抗議

2020 年 8 月、コカ・コーラ製品の自販機補充のドライバー助手をしていた男性が仕事中的熱中症で倒れ、翌年に 64 歳で亡くなりました。当日の現地の最高気温は 36 度。男性は自販機の設置場所の間をトラックに乗れずに歩いて移動させられ、しかも補充作業中はカーエアコンを切った助手席で待機を指示されていました。

男性を雇用していたのはコカ・コーラ製品の自販機飲料を補充・配送しているシグマベンディングサービス。労働基準監督署が労災として認定したにもかかわらず、シグマベンディングサービスは責任を認めようとしません。そこでご遺族は裁判を起こしながら、全国一般東京東部労働組合に加入して会社に責任追及をしています。

このシグマベンディングサービスでは、POSSE と連携する総合サポートユニオンに、5 年前から複数名の組合員が参加しており、同業種のサントリービバレッジソリューション（旧ジャパンビバレッジ）や大蔵屋などの組合員と一緒にストライキや裁判闘争による労働条件改

善を行ってきました。シグマベンディングサービスは総合サポートユニオンに対する団体交渉応諾義務があるため、ユニオンと遺族は一緒に団体交渉を行ってきました。この団体交渉には POSSE のメンバーもユニオンの組合員になって参加し、応援してきました。

2025 年 8 月 28 日、東京都目黒区のシグマグループ本社前で、責任を追及し、熱中症労災の再発防止を求めるため、亡くなった男性の配偶者とお兄さんが初めての抗議活動・申し入れに踏み切りました。POSSE から約 20 人が参加しました。お兄さんによる「命を返せ」というコールは、お金では「解決」することのできない死亡労災の本質を問いかけるものでした。

気候変動が激化する中で、熱中症による労災死亡事故が全国で相次いでいます。企業の利益に対して、労働者の命を最優先にするための労働運動を広げていく必要性が高まっています。

(当日の行動の動画を右の QR コードのリンク先から見るができます)



シグマホールディングス本社前での抗議



農地運営をつうじた 食料支援を始めました

NPO 法人 POSSE では、東京都八王子市にある畑を借り、作物を育てて、生活困窮者や難民へ届ける取り組みを今年3月から始めています。

近年、日本の報道でも「食料危機」がリアリティをもって語られるようになってきました。政府統計によると、日本では毎年約 20～30 人の経済的な理由（食べ物を買えない）による餓死者が出ています。東京科学大学の調査では、日本の5人に2人が健康的な食料を継続的・十分に摂取することのできない「食料危機層」です。

一方で、日本ではまだ食べられるにもかかわらず廃棄されている食品の量は、年間 472 万トンにもおよび、フードロス問題は深刻です。同時に、農業の担い手不足によって、耕作放棄地も増えており、2020 年の時点では 429.7 万ヘクタールにもおよぶと推計されています。

そこで学生たちが畑を耕し、ジャガイモやニンジン、ラディッシュ、オクラ、大豆といった幅広い野菜を育て、新鮮で栄養豊富な野菜を、食料を必要としている難民や生活困窮者の家庭へ届ける取り組みを始めました。困窮状態にある人は、移動が制限されている場合が多くあります。このため家庭に直接出向き、食料を手渡しするアウトリーチ活動をしています。その際、本人が貧困にいたった背景をくわしく聞き取ります。緻密な調査をつうじて、緊急の食料支援で「その場をしのぐ」だけでなく、適切な支援（生活保護などの各種制度）に繋ぎ、生活状況が長期的に改善されるように目指していきます。



雑誌『POSSE』59号・60号 を出版しました



雑誌『POSSE』61号の特集は「ファシズム・レント資本主義・コモンをめぐる実践」(予定)です。ご期待ください。

雑誌『POSSE』リニューアルに向けて 読者アンケートのお願い

社会や政治、運動をめぐる議論のあり方が大きく変貌しています。「テクノ封建制」「プラットフォーム資本主義」「レント資本主義」などと呼ばれていますが、SNSを中心として、人々の情動を駆り立てることで富を得るデジタル・プラットフォーマーに、人々の考えや行動が覆いつくされ、議論が成り立ちづらくなっているようです。そこで私たちはこれまで以上に、事実を告発し、社会のあり方をじっくり思考し、人々に直接働きかけて運動を組織していくための論考の場として、そのような言説を必要としている読者の方たちに届くように、本誌をリニューアルしていきたいと考えています。

ところが本誌では、ひさしく読者の方からの声を聞く機会がありませんでした。そこで、本誌はオンライン読者アンケートを実施することにしました。

どのような方が本誌を読んでくださっているのか。どの特集や記事が面白かったか。どのような著者や、どのような企画を読みたいか。本ページのQRコードを読み込んでいただくと表示されるURLにアクセスすると、Googleフォームが表示されますので、そちらにご感想・ご意見をご記入ください。リニューアル後も、毎号アンケートを設けていく予定です。議論の困難な時代に、社会運動の新しい言説の場をつくるための取り組みに、ぜひご協力ください。(雑誌『POSSE』編集部)

雑誌『POSSE』59、60号を出版しました。59号は「闇バイト」特集に加え、『なぜ働いていると本が読めなくなるのか』の著者・三宅香帆さんと今野晴貴の対談が見どころです。60号は「就職氷河期世代」特集です。ぜひご覧ください。

『POSSE』60号

【特集】見捨てられたのは「就職氷河期世代」なのか

近藤絢子 × 今野晴貴
蓑輪明子 常見陽平 今岡直之

POSSE、20年目の代表交代を迎えて
今野晴貴 岩本菜々
萩田航太郎 鳴原宏一郎

『POSSE』59号

【特集】何が若者たちを闇バイトに追い込むのか？

廣末登 今野晴貴 岩本菜々
今岡直之

アルゴリズムの時代に私たちは本を読めるのか？

三宅香帆 × 今野晴貴



こちらのQRコードのリンク先から、読者アンケートにご協力ください。

主なメディア掲載情報

- 2025.8.17.** 共同通信の「若者、野菜作りで「貧困に対抗」 物価高で高齢者らに収穫物配布」で、POSSE の農地運営について掲載されました。
- 2025.5.29.** 朝日新聞の「論壇委員が選ぶ今月の3点」で、雑誌『POSSE』59号から、POSSE 代表・岩本菜々の「闇バイト増加の背景にある若者の貧困と福祉の不在 生活相談現場からの考察」が取り上げられました。
- 2025.5.20.** 共同通信の「労働相談 NPO の代表に就いた大学院生 岩本菜々さん」で、POSSE 代表・岩本菜々のインタビューが掲載されました。
- 2025.3.27.** 毎日新聞の「移民と社会・Deep-M:「デカセギ」日系ブラジル人 解雇、インフレ、生活苦」で、POSSE 代表（当時）・今野晴貴のコメントが掲載されました。
- 2025.3.23.** 共同通信の「「求人詐欺」なぜ無くならない？ 正社員うたう求人票、実際は有期雇用 他社辞退し入社も2カ月で解雇」で、POSSE 代表（当時）・今野晴貴のコメントが掲載されました。
- 2025.3.28.** 『青春と読書』（集英社）に POSSE 理事・岩本菜々が「工藤律子『働くことの小さな革命ルポ 日本の「社会的連帯経済」』（集英社新書）を岩本菜々さんが読む」を投稿しました。
- 2025.2.18.&2.19.** 読売新聞の「困窮者支援「大人食堂」仙台 悩み語り合い食事楽しむ」、河北新報の「「大人食堂」5年ぶり開催」で、仙台 POSSE が主催した大人食堂が取材されました。
- 2025.1.30.** 朝日新聞の「論壇委員が選ぶ今月の3点」で、雑誌『POSSE』58号から、大石奈々・上阪徹・五十嵐泰正「日本からの『流出』は止まらない？」が取り上げられました。
- 2025.1.17.** 毎日新聞の「「非正規で安く使い捨て」日系ブラジル人への二重差別 今野晴貴さん」で、POSSE 代表理事（当時）・今野晴貴のインタビューが掲載されました。
- 2024.12.28.** 日経 MJ の「スポットワーク 双方不満」に、POSSE 理事・嶋原宏一郎のコメントが掲載されました。
- 2024.12.23.** 西日本新聞の「外国人の労災 最多 5672 人」に、POSSE 相談員・池田一慶のコメントが掲載されました。

SNS



NPO法人POSSE
@posse_volunteer



岩本菜々
@IwamotoNana



雑誌『POSSE』
@POSSE_mag



@npo_posse



<https://www.facebook.com/npoposse>

活動をご支援ください

私たちの活動は皆様からのご寄付によって支えられています。

労働相談

長時間労働、賃金未払い、解雇、退職強要、パワハラ・セクハラ、有給休暇、労災など、仕事に関する相談を無料で電話・メール・LINEにて受け付けています。年間約数百件の労働相談に対応しています。ご寄付は相談対応の電話料金やホットライン開催の宣伝費、相談者の方の交通費、その他集計作業に必要な事務用品費などに使用させていただきます。

生活相談

「生活に困窮し、所持金が底をつきそう」などの生活にお困りの方からの相談を無料で電話・メール・LINEにて受け付けています。内容とご相談された方のご希望をお聞きしたうえで、雇用保険・生活保護・住宅制度など福祉制度の活用方法について情報提供を行うほか、申請同行をはじめとする制度活用のサポートも行っています。ご寄付は相談対応の電話料金や申請同行の際の交通費などに使用させていただきます。



ご寄付の方法

銀行振込・郵便振替・クレジットカードにて受け付けております。
— 1,000 円～（何円でもご寄付いただけます）

銀行振込

銀行名：みずほ銀行
支店名：経堂支店 (736)
口座番号：普通・1075875
口座名義：特定非営利活動法人 POSSE
名義カナ：トクヒ) ポッセ
※銀行振込でご寄付をいただいた際は
affairs@npoposse.jp まで
ご一報いただけますと幸いです。

郵便振替

□座番号：00160-8-536722
□座名義：特定非営利活動法人 POSSE
※本季報に挟み込まれている払込取扱票
をご使用いただくと便利です。

クレジットカード

こちらのページで受け付けて
います。（右の QR コードの URL です）
<https://www.npoposse.jp/donate>



季報

2025 年 9 月号

NPO法人 POSSE

〒180-0004

東京都武蔵野市吉祥寺本町 1-33-6 木下ビル 3 階

TEL：042-227-5497（事務・取材受付）

MAIL：affairs@npoposse.jp

※事務所を下北沢から吉祥寺に移転しました。住所や電話番号が変更となっていますのでご注意ください。